

# 公共施設の再編に関する意見交換会 概要報告

日 時	平成30年11月9日(金)18時30分～20時00分																								
場 所	稲川生涯学習センター 視聴覚研修室																								
対 象 地 区	稲川地域(稲庭地区、三梨地区、川連地区、駒形地区)																								
参 加 者	17 人																								
	内 訳	計			20代			30代			40代			50代			60代			70代			80代		
		計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
	稲庭地区	3	3	0	0			0			0			2	2		1	1		0			0		
	三梨地区	4	4	0	0			0			1	1		0			2	2		1	1		0		
	川連地区	0	0	0	0			0			0			0			0			0			0		
	駒形地区	8	8	0	0			0			0			1	1		5	5		2	2		0		
	そ の 他	2	1	1	1	1		0			0			1		1	0			0			0		
	計	17	16	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	4	3	1	8	8	0	3	3	0	0	0	0
市 出 席 者	湯沢市公共施設アドバイザー、 企画課長、企画政策班長、担当																								

## 概 要

開 会																				
あ い さ つ	総務部長																			
説 明																				
	<p>&lt;テーマ:集会施設&gt;(企画課)</p> <p>① 集会施設の現状と課題</p> <p>② 市民討議会の意見概要</p> <p>③ 個別施設の方向性(検討案)</p> 																			

情報提供

集会系施設のあり方を考える（湯沢市公共施設アドバイザー 川嶋幸夫氏）



質疑応答、  
意見交換



・稲川地域では学校の統合を控えているが、集会施設については、学校との関係性を見据えながら協議していかなければならないと思う。

⇒（アドバイザー）学校施設は昔から地域コミュニティの拠点と言われていながら、学校が閉鎖的でなかなか地域が入って行けなかった。体育館やグラウンドは地域開放が進んでいるが、校舎内については、教育委員会では空き教室は無いと言っているの、地域に提供するスペースが無いという現状である。しかし子ども数が減っているなかで、余裕教室の利用状況はどうなっているのか、利用していない時間帯は地域に開放できるのではないかと、これから協議していかなければならない。学校は地域の資源であるが、土日休み、夏休み、冬休み等は利用されない、公共施設で一番非効率な施設である。空いている時間帯を地域に開放できれば、集会施設として有効活用できると思う。今日は集会施設をテーマにしているが、学校施設を有効活用して地域の皆さんの集会できる場所をどの位確保できるのか、また、他の古くなった施設についてもどうするのかを併せて考えるという大きな課題がある。

・稲川地域は各地区に小学校があり、地域コミュニティが形成されているが、小学校の統廃合により地区のつながりが薄れていくのではないかと危惧している。

⇒(アドバイザー)地縁組織は原点であり、今ある地縁組織を守らなければならない。しかし、将来的に地縁組織が成り立たなくなる時に、一つ一つを残すことは難しいかもしれないが、皆さんが共通の理念を持って同じ方向の協議会組織を作ること、お互いの組織をサポートし合う関係性ができれば、地域の活性化は可能だと考える。人口減少時代の中で、今の仕組みの中でどうやって地域を守り育てるのが、地域経営を考える上で重要になる。市側にも公共施設の再編をするだけでなく、再編を契機に地域経営の在り方を考え、ハードとソフト両面で地域の活動を支える仕組みを作る必要があると伝えている。

・施設を譲渡された場合、地域が税金を支払うようになるのか。

⇒(アドバイザー)他の自治体の例では、減免制度を適用しているところもある。地域の負担が大きくなることがないようにしながら、どのように支援していくのか仕組みを検討することとなる。

・地区センターが無い地区の自治組織の拠点はどこをどう考えているのか。

⇒(市)地区センターがない稲川地域の三梨・川連・駒形地区は活動拠点を稲川生涯学習センターとしており、エリアと一致していないところもある。今後、自治組織の皆さんが活動するための拠点がどうあったらよいのかを検討するうえでは、市が一方向的に決めるのではなく、地域の皆さんにも、どこにどのような広さが必要なのかを考えていただかなければならない。最寄りになくても現在の場所で拠点として機能するのか、自治組織の活動と一体となった拠点の在り方について検討していく。

・説明いただいた内容は理解できるが、実際は難しいと思う。施設そのものの有効活用は望ましい姿であるが、地域で運営を考えていくのは、現実的に困難でないか。自治組織を立ち上げる時に、自治体職員を配置し、リードして、形づくりをしていったが、現在は、理想としたものからは遠くなってしまった。予算と人材の面からハードルは高いと感じている。

また、集落会館として使用している施設は、他の地域の実態を考えると、集落で管理していくことは当然のことだと思うが、小規模な地域だとそれすら難しくなっている。地区センター機能も含めて小学校があればそれを生かして解決できるのではと言っても、そこまでの道筋は遠いと思う。

⇒(アドバイザー)自治組織については、参加・協働のまちづくり推進指針に沿って進めてきたが、10年経過してうまく進んでいない部分もあるようだ。指針は基本計画であり、もう少しブレイクダウンした形で実施計画として描いていく時期が到来している。あらためて地域の経営、市民団体の活性化をどうするのかを考えなければならない。市の考えが出たら提案させていただく機会を作ろうと思う。

・集落単位の集会施設の譲渡について、個別の説明会はあるのか。個別の要望等相談させてもらいたい。

⇒(市)今日は集会施設の大枠の方向性を示したもので、個別の施設の話になるときは、当然利用者や地域の方との協議の場は持たなければならないと考えている。また、成案化する前でも必要に応じて出向くことは可能である。

・三梨老人憩の家について、担当課との話し合いの場を持っているが、地元では現状のままで譲り受けは難しいという意見であり、その後、市の検討はどのようにになっているのか。

⇒(アドバイザー)地域の方にとっては、施設の規模や、譲渡後の管理費が心配であるとのことだと思う。耐震上課題のある施設なので、このまま利用、譲渡していいのかということも協議が必要である。譲渡ありきの協議ではなく、代替施設の利用が可能でないかということも含めて施設の在り方を整理していかなければならない。譲渡に当たっては、改修費への支援を今よりも手厚くしたり、地域の活動交付金として施設の管理費を交付するなど、市として支援の仕組みを考えていく必要があると考える。担当課ではそこまでまだ答えは出ていないので、時間をいただきたいと思う。

概 要	
	<p>・駒形町自治区は活動拠点が遠く、活動自体が難しいと感じている。</p> <p>⇒(アドバイザー) 公共施設の再編で一番課題となるのは、足の確保である。地域でコミュニティバスなど運営している例もある。集会施設が遠くなることで活動ができなくなることは本末転倒であるので、そういうことがないようにするにはどうしたらいいか、行政の大きな課題として捉えており、公共施設の再編とセットで検討していくこととなる。</p> <p>(アドバイザー)</p> <p>市の提案について概ね御理解いただけたと捉えてよいか。一つ一つ個々の施設ではそれぞれ課題があると意見をいただいたので、個別に整理していくことになる。</p>
閉 会	20時00分終了